



脳梗塞・心筋梗塞発症リスク検査報告書

～ 将来の発症リスクを予測する「LOX-index®」 ～

受診医療機関名	NKメディコクリニック
氏名	エヌケイ タロウ

★氏名 エヌケイ タロウ 様

★受診日 2017/5/1

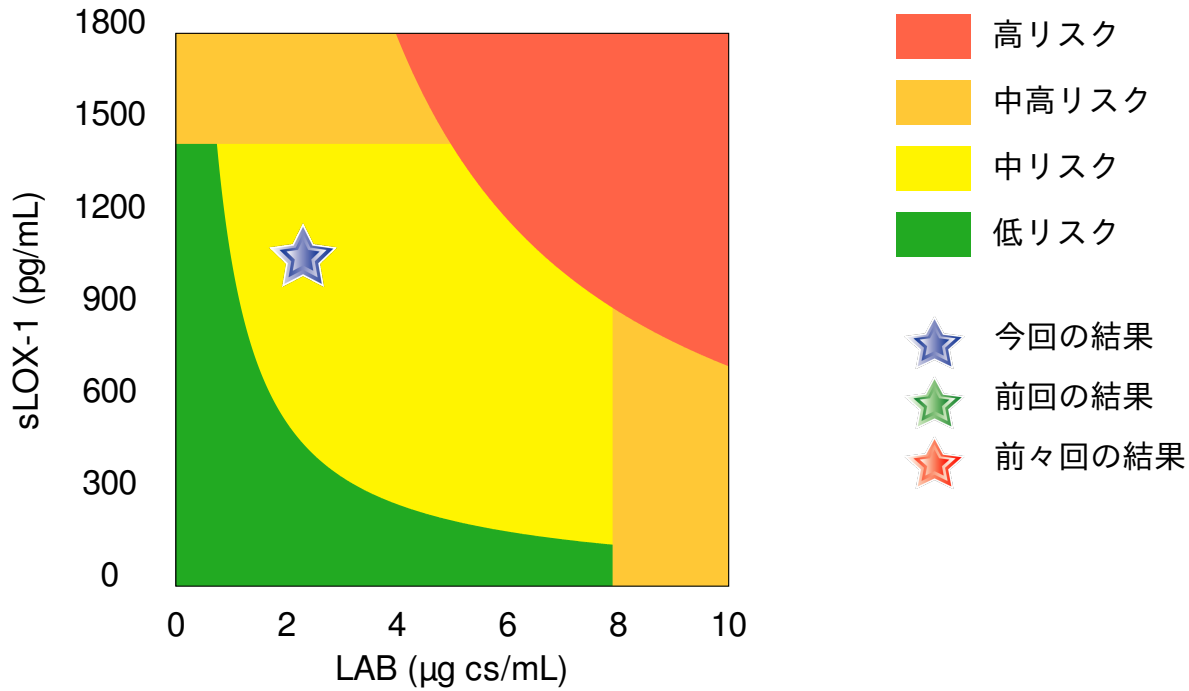
★カルテID 12345

★性別 男性

★年齢 36

総合評価グラフ

脳梗塞・心筋梗塞発症リスクは **中** です



※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。

LOX-index®
とは？

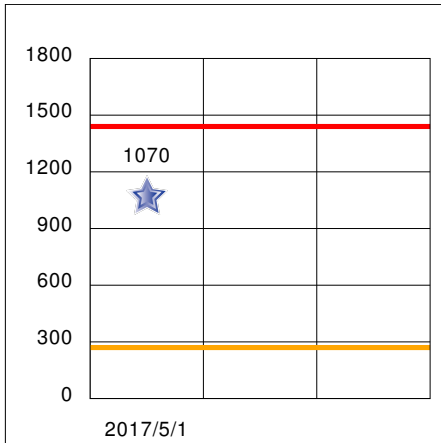
動脈硬化の初期段階は、超悪玉コレステロール **LAB** (酸化変性LDL)と超悪玉コレステロールの担い手である **LOX-1** が結合することにより起こると考えられています。そのため **LOX-index®** は、LABとLOX-1を測定・解析することで、動脈硬化の初期段階を捉えることができます。また日本国内で行われた追跡研究の結果、**LOX-index®** が高いと将来の脳梗塞発症率は約3倍、心筋梗塞発症率は約2倍となることがわかっています。**LOX-index®** は脳梗塞・心筋梗塞の発症リスクを評価できる、唯一の検査です。

総合評価コメント

超悪玉コレステロールの担い手LOX-1が高く、血管障害リスク（血管が傷む危険性）が進行しやすい方向に傾いていると考えられます。高血圧、高血糖、肥満、喫煙など他の動脈硬化リスクを持っている人は、疾患の治療や生活習慣の改善によってリスクを抑える必要があります。LOX-1は炎症で上昇することが知られているため、生活習慣病や慢性疾患などにより炎症が起っている可能性があります。LOX-1が高い状態でLABが高くなると更にリスクが高まるため、LABを上昇させないようにすることが重要です。状態把握のためにも、一年後の再受診をおすすめします。

個別時系列データ

sLOX-1



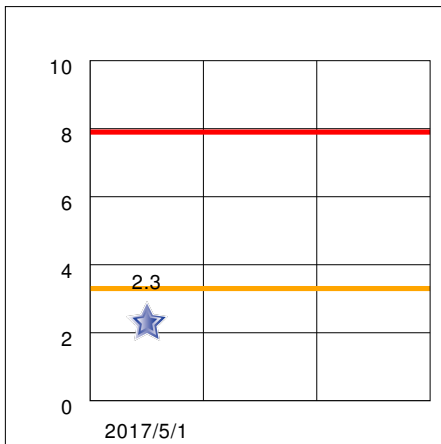
評価 **中**

評価基準値 270 < 中 1440 < 高

解説

超悪玉コレステロールの担い手LOX-1は、血液中から異物を取り除く働きをしています。血管に障害が起こるとLOX-1の生成が促進されるため、LOX-1は血管炎症の指標として利用されています。今回の結果は、LOX-1の値が高くなっています。LOX-1は血中から異物を取り除く働きをしているため、酸化LDLなどに代表される動脈硬化の原因物質が多く、血管の炎症が起っていると考えられます。この状態を改善するには、ストレスを避ける必要があります。メンタルストレスのほか、酸化ストレスにも注意して下さい。食を中心とした生活習慣の改善をお勧めします。

LAB



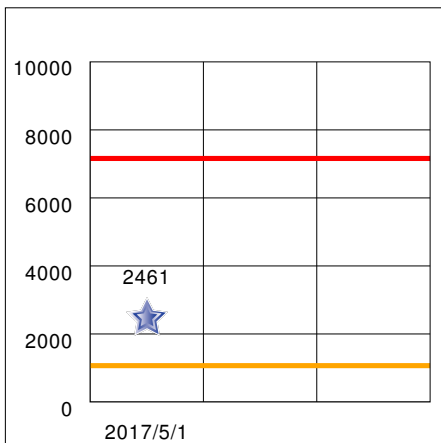
評価 **低**

評価基準値 3.3 < 中 7.9 < 高

解説

超悪玉コレステロールLABは、悪玉コレステロールであるLDLコレステロールが酸化し、サビ付いた状態を示します。LDLコレステロールの一部は活性酸素等の影響によりサビつきます。このサビ付いたLDLコレステロールは動脈硬化を引き起こす原因となります。今回の結果は、動脈硬化の原因であるLABは低く、動脈硬化が進行しにくい理想的な状態を保てていると考えられます。しかし、安心は禁物です。特に加齢に伴って、血中の異物は増え、動脈硬化が進行しやすくなります。今まで以上に健康を意識した生活習慣を心がけて下さい。

LOX-index



評価 **中**

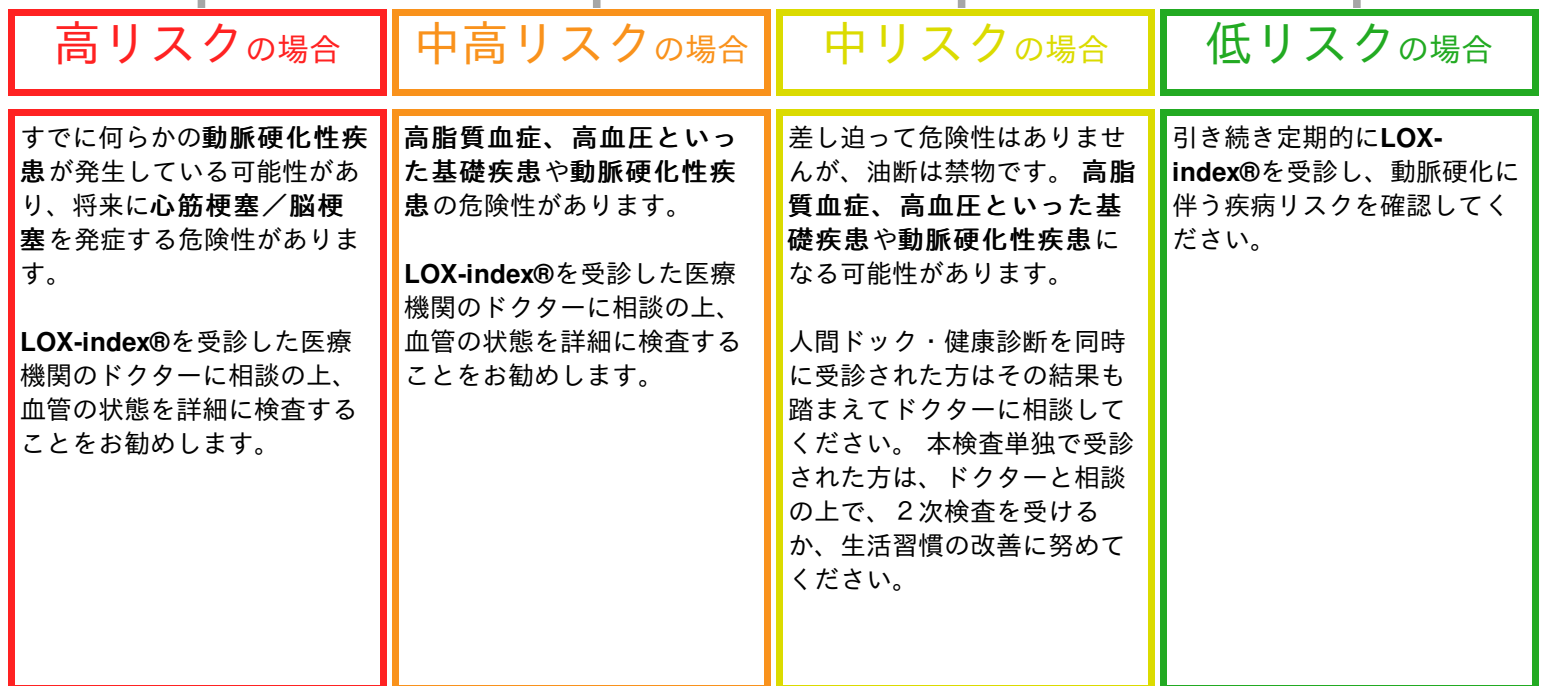
評価基準値 1068 < 中 7160 < 高

解説

「LOX-index」は、脳梗塞・心筋梗塞発症リスクを評価する最新の指標です。この結果は、将来の脳梗塞・心筋梗塞発症率を大きく左右します。今回の検査結果では、リスクは中程度と評価されました。将来、脳梗塞・心筋梗塞が発症するリスクは少し高めとなっています。一時的な生活習慣の変化やストレスの上昇による、一過性の軽微なものとも考えられます。しかし今後、加齢などにより発症リスクが上がる可能性がかなり高いため、生活習慣の改善などでLOX-1とLABを下げる必要があります。よりよい生活習慣とストレス解消を心がけて、リスクの軽減に努めましょう。

LOX-index®を受診された後に . . .

LOX-index®の受診結果で、
あなたの動脈硬化に伴う疾病リスクが分かります。



2次検査
CAVI検査、ABI/PWV検査
動脈血管の硬さ、詰まりを検査します。手足の血圧比や脈波を検査し、動脈硬化の程度を調べます。
FMD検査(血管内皮の硬さ)
動脈硬化の前段階で起こる障害のレベルを測定し、動脈硬化を早期に見つけるための検査です。
頸動脈エコー
超音波の発信装置を首にあて、動脈硬化の有無や程度を調べる検査です。

規則正しい生活、バランスのよい食事、適度な運動を心がけ、現在の健康状態を維持するよう、お努めください。定期的なLOX-index®をはじめとした検診を受け、ご自身の現在の健康状態を知っておくことも重要です。

精密検査
CT検査(コンピュータ断層撮影)
X線とコンピュータを使用し、脳卒中の有無やタイプを調べます。
MRI/MRA検査(磁気共鳴画像)
電磁波を使用し、脳の断層像、血管の状態を映像化する検査です。
血管造影検査
体内にカテーテルを通し、造影剤を入れ、X線撮影します。血管の状態が詳細に分かります。

※ 当検査は、研究検査項目になるため診断目的で使用いただくことはできません。